



VHF無線電話装置
IC-VM2005CTM
UHF無線電話装置
IC-UM2005CTM



この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。この取扱説明書は、別売品のこと記載していませんので、お読みになったあと大切に保管してください。

Icom Inc.

目次

この取扱説明書では、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、各種機能や設定について詳しくは、販売店にご相談ください。

1. 安全上のご注意(必ずお読みください)	1
2. 設置と接続	3
2-1 接続端子の名称と機能	3
2-2 設置のしかた	4
2-3 接続のしかた	5
3. 交信時のアドバイス	6
■ マイクホンについて	6
■ モニター機能について	6
■ 相手局の設定について	6
■ 交信する場所について	6
■ 正しい通話のしかた	6
4. マイクホンの操作	7
4-1 操作部の名称と機能(HM-143)	7
4-2 呼び出し機能“ON/OFF”について	9
4-3 運用の準備	9
4-4 基本操作【呼び出し機能ON】	10
4-5 相手局の選びかた【呼び出し機能ON】	12
4-6 基本操作【呼び出し機能OFF】	13
4-7 マイクハンガーによる音量調整機能	15
5. その他の機能	16
1. ポケットビープ機能	16
2. アンサーバック機能	16
3. Pベル機能	16
4. 終話判定時間	16
6. 保守について	17
7. 別売品一覧表	19

はじめに

このたびは、アイコム業務用無線電話装置をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

- ◎ 本機は、複数波簡易業務用無線電話装置です。
IC-VM2005CTMは、9チャンネルに対応します。
IC-UM2005CTMは、35チャンネルに対応します。
- ◎ 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品です。
- ◎ DC-DCコンバーターを内蔵し、電圧を自動判別することで、電源ケーブルを12/24V系バッテリー車に直接接続できます。
- ◎ 個別呼び出し機能を「ON」に設定された本製品で、個別番号の有効桁数を「2桁設定」でご使用になる場合は、相手局が、通信可能な距離にいるかを知らせるアンサーバック機能を設定できます。
- ◎ 他局の不要な通話をカットする連続トーンスケルチ、連続デジタルコードスケルチ機能を設定できます。
- ◎ 基地局用としてご使用の場合は、別売品の卓上電源装置(PS-230)がご利用になれます。

標準構成品

- 無線機本体：IC-VM2005CTM
IC-UM2005CTMのいずれか1台
- 取り付け金具：タッピンネジ4本を含む1式
- 電源ケーブル：OPC-5851
- マイクハンガー：1
- アースコード：マイクハンガー用1
- 予備ヒューズ：F0B5A2本
- 取り付けネジ：別売品(PS-230)用4本
- 取扱説明書：1
- 保証書：1

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icom、ポケットビープはアイコム株式会社の登録商標です。

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の「△危険」「△警告」「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

△ 危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎引火性ガスの発生する場所(給油所など) 引火、発火、爆発の原因になります。では、絶対に使用しないでください。

△ 警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎運転中は、本機を操作しないでください。
交通事故の原因になります。
- ◎運転中は、大きな音量で、使用したり、イヤホンなどを使用しないでください。
踏切の警報や他の車のクラクション、その他の警報が聞きとれず、交通事故の原因になります。
- ◎音が鳴り出したら、機器やアンテナ線、電源ケーブルには、絶対にさわらないでください。
感電事故の原因になります。
- ◎マイクホンのケーブルを持って、マイクホンを振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たり、けがや故障および破壊の原因になります。
- ◎電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破壊し、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎電源ケーブルや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破壊し、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎運転操作を妨げる場所に設置しないでください。
交通事故の原因になります。
- ◎万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎下記の記載事項を守らないと、火災、感電、故障の原因になります。
 - 電源電圧(DC26.4V/13.8V)以外の電圧で使用しないでください。
 - 指定以外の付属品(電源ケーブルやヒューズなど)、および別売品は使用しないでください。
 - 電源ケーブルや接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。
 - 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 電源ケーブルを本体に接続するときは、極性(⊕/⊖)をまちがえないでください。発火の原因になることがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。けが、故障の原因になることがあります。
- 長時間使用すると、本体の温度が高くなります。子供や周囲の人が、本体に触れないようにご注意ください。火傷の原因になることがあります。
- 本機の内部に、針金などの金属物を入れないでください。ショートして発火の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

取り扱い上のご注意

- 本装置の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、離れてご使用ください。
- 直射日光のあたる場所に、長時間放置しないでください。炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えます。また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- 車載運用では、バッテリー保護のためにも、一日の使用が終わったときは、必ず本機の電源を“OFF”にしてください。

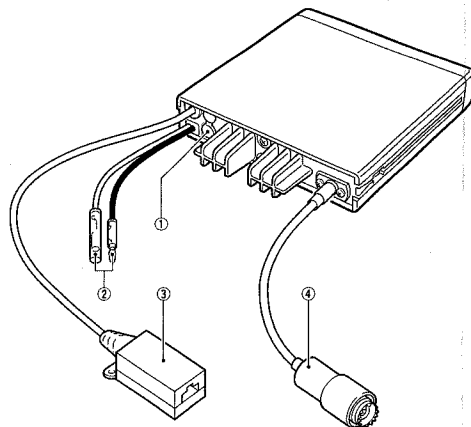
電波法上のご注意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した業務用無線電話装置です。これは簡単な手続きにより無線送受信機を使っていたために定められたもので、無線機本体を容易に分解できない構造になっています。ご自分で分解や改造をしないでください。
- 通信は免許状に記載されている範囲内で行ってください。
- 特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- 免許の有効期限は、免許を取得した日から5年間です。再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前の間に手続きをしてください。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

2

2 設置と接続

2-1 接続端子の名称と機能



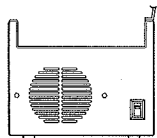
① 外部スピーカージャック	外部スピーカー(別売品: SP-7、SP-10または卓上電源装置/PS-230)のスピーカーケーブルを接続します。(※P19) インピーダンスは、4Ωです。
② DC電源接続端子	DC13.8VまたはDC26.4Vの電源を接続する端子です。(※P5) 付属品の電源ケーブルを使用して、車載バッテリーに接続します。
③ マイクコネクター	別売品のシンプルマイクロホン(HM-143)を接続します。(※P5、19)
④ アンテナコネクター	アンテナを接続するM型コネクターです。 インピーダンス50Ωのアンテナを接続します。

3

設置と接続 2

2-2 設置のしかた

■ 基地局での運用



屋内で、基地局として運用するときは、別売品の卓上電源装置(PS-230)をご利用ください。取り付けおよび接続方法については、それぞれの別売品に付属する取扱説明書をお読みください。

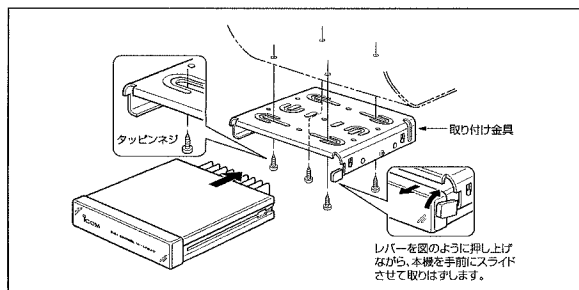
■ 自動車での運用

自動車への設置は、次のことにご注意ください。

- 直射日光が長時間あたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所への設置は、極力避けてください。
- 安全運転に支障のない場所を選んでください。

◎ 取り付けかた

1. 付属品の取り付け金具を利用して、下図のようにダッシュボードなどに、付属品のタッピンネジで取り付けます。
2. 取り付け金具のガイド部分に、本体両サイドにある溝を合わせ、本機をスライドさせて固定します。スライドしていくと、なかほどから重くなりますが、軽く力を入れて押してください。
3. 本機を取りはずすときは、右側のレバーを図のように押し上げながら、本機を手前にスライドさせて取りはずします。



4

2 設置と接続

2-3 接続のしかた

本機後面パネルに付属品の電源ケーブル、別売品のマイクロホン、市販のアンテナをそれぞれ接続します。

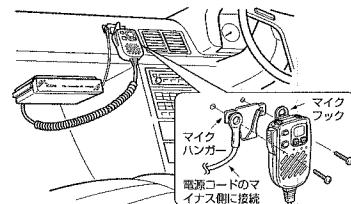
【ご注意】

- ◆マイクロホンは、マイクコネクターに「カチッ、カチッ」と2回音がするまで差し込んでください。
- ◆付属品の電源ケーブルは、赤色がプラス、黒色がマイナスです。DC26.4V±10%またはDC13.8V±10%の電源装置に接続してください。車載の場合は、付属品の電源ケーブルを使用して、24Vまたは12Vのバッテリーに直接接続してください。

■ 車内での取り付け例

下図を参考に、運転に支障がなく、操作のしやすい場所を選んでください。

◎HM-143(シンプルマイクロホン)の場合



【アースコードについて】

マイクロホンを使用する場合は、上図のように付属品のアースコードとマイクハンガーをビスで固定してください。また、もう一方の端を電源ケーブルのマイナス側に接続してください。

5

■マイクロホンについて

- マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を5cmくらい離し、ふつうに話す大きさの声で話します。
- また、あまり大きな声で話すと、かえって明瞭度が悪くなります。
- 話/送ランプが、緑色に点灯(受信)しているときや、他局が交信しているときは、[PTT]スイッチを押さないでください。
- 送信モニター時のブザーが設定されているときは、[PTT]スイッチを押すと、ピープ音が“ピッ”と鳴りますので、そのあとマイクロホンに向かって話します。

■モニター機能について

通常は使用しませんが、他の局が個別呼び出しで交信しているとき、[モニター]スイッチ(≡P7)を押すと、その交信を受信できます。また、相手局の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいとき、[モニター]スイッチを押すと、聞きやすくなります。

■相手局の設定について

特定の相手局を呼び出すには、相手のメモリー番号または個別番号と、通話チャンネルを設定してください。なお、メモリー番号と、そのメモリー番号に記憶された個別番号の値が異なる場合は、あらかじめ、相手局の個別番号が設定されたメモリー番号にしないと、呼び出せません。

■交信する場所について

建物の影などに入ると、受信しにくくなることがあります。そのときは、場所を少し移動して交信してください。

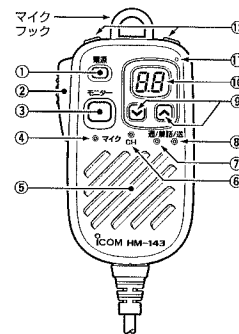
■正しい通話のしかた

通話は、次の要領で行ってください。
用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

呼び出し	「相手局の呼び出し名称」…3回以下
	「こちらは」……………1回
	「自局の呼び出し名称」…3回以下
	「どうぞ」……………1回
応答	「相手局の呼び出し名称」…3回以下
	「こちらは」……………1回
	「自局の呼び出し名称」……………1回
	「どうぞ」……………1回

以下、用件を簡潔に話してください。

4-1 操作部の名称と機能(HM-143)



①電源スイッチ	本機の電源スイッチです。 スイッチを押すごとに、本機の電源を“ON/OFF”します。(≡P10、13)
②PTT(送信)スイッチ	送信するときは、このスイッチを押しながら(話/送ランプを赤色に点灯)、マイクロホンに向かって話しかけます。
③モニタースイッチ	音量の確認や他局の交信を聞くときに押します。(≡P10、13) スイッチを短く押すごとに、スケルチを“ON/OFF”します。 なお、スイッチを長く押すごとに、通話チャンネル表示とメモリー番号表示を切り替えます。(≡P12) ●通話チャンネルを2チャンネル以上に設定しているときに動作します。
④マイクロホン部	この部分に、小型のマイクロホンを内蔵しています。 送信時は、この部分に向かって話しかけます。
⑤スピーカー部	この部分に、スピーカーを内蔵しています。
⑥CHランプ	ディスプレイ部が通話チャンネル表示のときに点灯します。
⑦通/着ランプ	通話/着信の状態を表示します。 ●「呼び出し機能ON」(≡P11)で呼び出しを受けると、緑色に点灯します。 ●通話状態では緑色に点灯し、終話判定時間(≡P18)を過ぎると消灯します。 なお、「呼び出し機能OFF」(≡P9、13)の場合は、機能しません。
⑧話/送ランプ	話中/送信の状態を表示します。 ●受信時などスケルチが聞くと、緑色に点灯します。 ●送信時など[PTT]スイッチを押すと、赤色に点灯します。

マイクロホンの操作 4

⑨選択スイッチ	通話したい相手局のメモリー番号および通話チャンネルを選択します。(≡P12) なお、通話チャンネル表示とメモリー番号表示の切り替えは、[モニター]スイッチを長く押します。(≡P10、12、13) ⓧを押すと、表示番号がアップします。 ⓧを押すと、表示番号がダウンします。 押し続けると、連続で可変します。
⑩ディスプレイ	[選択]スイッチで選んだ、通話チャンネルまたはメモリー番号を表示します。
⑪オートディマ-用検光窓	周囲の明るさに応じて、自動でディスプレイの明るさ(輝度)を調整します。
⑫音量スイッチ	受信時の音量を段階的に調整します。(≡P10、13) ⓧを押すと、音量がアップします。 ⓧを押すと、音量がダウンします。 押し続けると、連続で可変します。 なお、音量レベルが最大になると、禁止音が1回鳴って止まります。

■ディスプレイ部

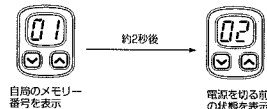
通話チャンネル表示	通話チャンネル表示の意味
1 ~ 0	交信に使うチャンネルの表示です。(≡P10、12、13) ※ 交信相手と同じチャンネルに設定してください。 ● IC-VM2005CTMは9チャンネル/IC-UM2005CTMは35チャンネルを表示します。 ※ 同時にCHランプが点灯します。
メモリー番号表示	メモリー番号表示の意味
AL	【全体呼び出し】 全局を一齐に呼び出すときの表示です。 ※ 「呼び出し機能OFF」(≡P9)の場合も、同じ表示です。
00 ~ 99	【個別呼び出し】 個別局または基地局を呼び出すときの表示です。 ※ 個別番号は、00~99のメモリー番号に記憶しています。
-0 ~ -9	【グループ呼び出し】 グループ局を呼び出すときの表示です。 100局を一齐に呼び出します。 「-0」は、000~099の個別番号を意味します。

4 マイクロホンの操作

4-2 呼び出し機能“ON/OFF”について

呼び出し機能とは、あらかじめ交信したい特定の局を選んで呼び出せる機能です。(≡P12参照)
ご購入時、呼び出し機能を設定していないときは、使用できる機能に制限があります。
呼び出し機能の設定状態を、電源投入直後のディスプレイ表示で確認できます。
なお、本書では、この機能を設定している状態を「呼び出し機能ON」、この機能を設定していない状態を「呼び出し機能OFF」として説明します。

●「呼び出し機能ON」表示



●「呼び出し機能OFF」表示

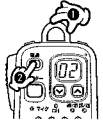


4-3 運用の準備

- アンテナ、電源ケーブル、マイクロホンなどが、正しく接続されていることを確認してください。
 - マイクコネクターは、2段ロック構造になっています。マイクロホンのプラグをマイクコネクターに“カチッ、カチッ”と2回音がするまで、差し込んでください。
 - 連続トーンスケルチまたは連続デジタルコードスケルチ機能とマイクハンガーによるスケルチ制御の両方が本機に設定されているときは、マイクロホンをマイクハンガーに掛けていることを確認してください。
- ※ この状態にならないと、呼び出しを受けたときの動作(ポケットピープ、通/着ランプ点滅、相手局番号表示)を行いません。

4-4 基本操作【呼び出し機能ON】

1. 電源を入れる



1. マイクロハンガーからマイクロホンをはずします。
2. マイクロホンの【電源】スイッチを押します。
 - 自局のメモリー番号をディスプレイに表示し、約2秒後にピープ音が「ピーッ」と鳴り、電源を切る前の状態を表示します。



2. 音量を調整する



1. 何も音が出ていないときは、【モニター】スイッチを押して、「ザー」というノイズが出る状態にします。
 - 話/送ランプが緑色に点灯します。
2. 【音量】スイッチの田または日を押して、聞きやすい音量に調整します。
3. 再度、【モニター】スイッチを押すと、ノイズが出なくなり、話/送ランプが消灯します。

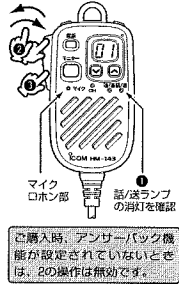
3. 相手局を選ぶ



1. 【選択】スイッチの田または日を押します。(相手局の選びかたはP12)



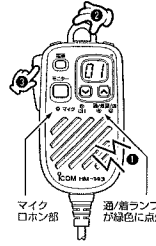
4. 呼び出しをする



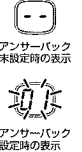
1. 話/送ランプの消灯を確認します。
2. 【PTT】スイッチを短く押します。
 - ビープ音が、「ピッ」と鳴ります。
 - 相手局が通話圏内であれば、ピープ音が、「ピッ」と鳴って、通/着ランプが緑色に点灯します。
 - その後、約5秒間何も信号がなければ消灯します。
 - 相手局が通話圏外であれば、通/着ランプは点灯しません。
3. 【PTT】スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、「こちらは〇〇局です。〇〇さんどうぞ。」と呼びかけます。
 - ビープ音が、「ピッ」と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。

4-4 基本操作【呼び出し機能ON】(つづき)

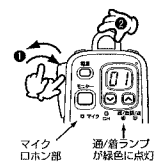
5. 呼び出しを受ける



1. 呼び出しを受けると、通/着ランプが緑色に点灯します。
 - ポケットビープ設定時は、ポケットビープが「ピロピロピロ」と鳴ります。
 - アンサーバック機能が設定されていると、上記の状態に加えて、相手局のメモリー番号をディスプレイに点滅表示します。
2. マイクロハンガーからマイクロホンをはずします。
3. 【PTT】スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、「こちらは〇〇局です。××さんどうぞ。」と応答します。
 - ビープ音が、「ピッ」と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。



6. 交信する



1. 交信は、交互に行います。
 - 送信中は話/送ランプが赤色に点灯し、受信中は緑色に点灯します。
 - 双方同時に送信しても、交信できません。
 - ※送信の終わりに「どうぞ」をつけ加えると、会話がスムーズに運びます。
 - 交信中(通話状態)は、通/着ランプが緑色に点灯します。
2. 交信が終わりましたら、マイクロホンをマイクロハンガーに掛けます。

4-5 相手局の選びかた【呼び出し機能ON】

メモリー番号(2桁)には、交信相手の個別番号(3桁)が記憶されています。

- メモリー番号の選びかたによって、次の4とおりの呼び出しができます。(P8参照)
- 個別呼び出し(初期設定 00~10)
 - メモリー番号(00~99)のうち特定の1局を呼び出す
 - グループ呼び出し
 - メモリー番号(0~9)に記憶された100局を一斉に呼び出す
 - 全体呼び出し
 - 全局(AL)を一斉に呼び出す

1. 通話チャンネルを選ぶには

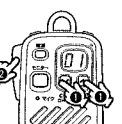


- 通話チャンネルとは、交信する周波数を記憶しているチャンネルのことです。
- 本機のチャンネルは、IC-VM2005CTMは9チャンネル、IC-UM2005CTMは35チャンネルの選択ができます。
- あらかじめ交信する全局は、同じチャンネルにしておきます。



【優先表示について】
【モニター】スイッチを長く押し、選択スイッチを押すまでの間隔が長すぎる場合、自動で操作前の表示に戻ります。スイッチ操作は、迅速に行ってください。

2. メモリー番号を選ぶには

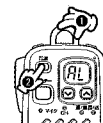


1. 【モニター】スイッチを長く押し、通話チャンネル表示にします。
 - CH表示ランプが緑色に点灯します。
 - ※通話チャンネルが2チャンネル以上のときに動作します。
2. 【選択】スイッチの田または日を押します。
 - ※あらかじめ、設定された通話チャンネルだけが選べます。



4-6 基本操作【呼び出し機能OFF】

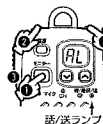
1. 電源を入れる



1. マイクロハンガーからマイクロホンをはずします。
2. マイクロホンの【電源】スイッチを押します。
 - ディスプレイに“AL”を表示し、約2秒後にピープ音が「ピーッ」と鳴り、電源を切る前の状態を表示します。

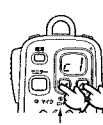


2. 音量を調整する



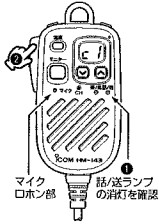
1. 何も音が出ていないときは、【モニター】スイッチを押して、「ザー」というノイズが出る状態にします。
 - 話/送ランプが緑色に点灯します。
2. 【音量】スイッチの田または日を押して、聞きやすい音量に調整します。
3. 再度、【モニター】スイッチを押すと、ノイズが出なくなり、話/送ランプが消灯します。

3. 相手局を選ぶ



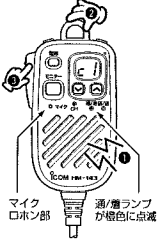
1. 【選択】スイッチの田または日を押して、相手局と同じ通話チャンネルにします。
 - “AL”表示のときは、【モニター】スイッチを長く押しすと通話チャンネル表示になります。
 - CH表示ランプが緑色に点灯します。
 - ※通話チャンネルが2チャンネル以上のときに動作します。
2. 通話チャンネルとは、交信する周波数を記憶しているチャンネルのことです。
 - IC-VM2005CTMは9チャンネル
 - IC-UM2005CTMは35チャンネルの選択ができます。

4. 呼び出しをする



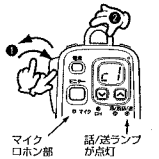
1. 話/送ランプの消灯を確認します。
2. [PTT]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、
「こちらは××局です。
〇〇さんどうぞ。」と呼びかけます。
● ビープ音が、「ピッ」と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。

5. 呼び出しを受ける



1. 呼び出しを受けると、ポケットビープ(ポケットビープ設定時)が「ピロピロピロ」と鳴って、通/着ランプが緑色に点滅します。
なお、ディスプレイ表示は呼び出しを受ける前の状態を保持します。
2. マイクハンガーからマイクロホンをはずします。
3. [PTT]スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって、
「こちらは〇〇局です。
××さんどうぞ。」と応答します。
● ビープ音が、「ピッ」と鳴って、話/送ランプが赤色に点灯します。

6. 交信する



1. 交信は、交互に行います。
● 送信中は、話/送ランプが赤色に点灯し、受信中は緑色に点灯します。
※ 双方同時に送信しても、交信できません。
※ 送信の終わりに「どうぞ」をつけ加えると、会話がスムーズに進みます。
2. 交信が終わりましたら、マイクロホンをマイクハンガーに掛けます。

4-7 マイクハンガーによる音量調整機能

【ご参考】

あらかじめ、この機能が本機に設定されていないと、機能しません。
この機能を使うと、マイクロホンをマイクハンガーに掛けたときの音量と掛けていないときの音量を、別々に設定できます。
騒音の多い場所でお使いのときなど、呼び出し音は大きく、手で通話するときには、音量が小さくなるように設定できます。

【マイクハンガーに掛けたときの音量設定】

- ① マイクロホンをマイクハンガーに掛けた状態にします。
- ② 何も音が出ていないときは、[モニター]スイッチを押して、「ザー」というノイズが出る状態にします。
● 話/送ランプが緑色に点灯します。
- ③ [音量]スイッチの田または日を押して、聞きやすい音量に調整します。
- ④ 再度、[モニター]スイッチを押すと、ノイズが切れます。

【マイクハンガーに掛けていないときの音量設定】

- ① マイクロホンをマイクハンガーからはずした状態にします。
- ② 以下、【マイクハンガーに掛けたときの音量設定】の操作②以降の順番で音量を調整します。

その他の機能

5

6

保守について

1. ポケットビープ機能

全体またはグループ呼び出しのときは、ポケットビープ機能は動作しませんので、相手局の応答に関係なく、マイクロホン部に向かって呼びかけてください。
工場出荷時は、「OFF」に設定しています。

個別局を呼び出しをしたとき、相手局では呼び出し音(ポケットビープ)が約30秒鳴り続けます。
(ポケットビープ設定時)
呼び出しをしたとき、相手が無線機から離れていたなどの理由で、応答がないときは、呼び出し局が再度[PTT]スイッチを押すと、何回でも呼び出しをかけることができます。
※ アンサーバック機能を設定している場合、再度ポケットビープで呼び出しをかけたいときは、両者の無線機が待ち受け状態(通/着ランプが消灯)に戻ってから、[PTT]スイッチを押します。

2. アンサーバック機能

工場出荷時は、「OFF」に設定しています。

「呼び出し機能ON」の状態を設定できる機能で、特定の局を呼び出すとき、相手局が通話圏内であるかを、通/着ランプの点灯で確認できます。
なお、アンサーバック機能を使用するには、お互いに、この機能を設定しておきます。

3. Pベル機能

工場出荷時は、「OFF」に設定しています。

呼び出しがあったことを静かに知らせる機能で、この機能を「ON」にしておくと、呼び出しを受けたとき、相手局の音声をミュートして、着信ランプの点滅(緑色)とブザー(ピー音、③回)で知らせます。
このとき、ポケットビープが設定されていると、ブザーのあとに、ポケットビープ音が鳴ります。

4. 終話判定時間

本機が、「呼び出し機能ON」に設定されているとき、機能します。

マイクロホンの通/着ランプが緑色に点灯(通話状態)しているときは、表示中のメモリー番号または個別番号で交信できます。
終話判定時間(工場出荷時:5秒)以上、通話が途切れたときは、通話状態を自動的に解除(終話)します。

日常の保守と点検について

- マイクロホン、アンテナ、電源ケーブルなどがしっかりと接続されているか、ゆるみがないかを点検してください。
- 音量が最小にセットされていないか、[モニター]スイッチを押して確認してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通信状態に変化がないか調べてください。
- 車載でご利用のときは、車載用アンテナが走行中にはずれると大変危険ですから、しっかりと固定されていることを点検してください。
- ふだんのお手入れは、やわらかい布で、汚れのひどいときは、中性洗剤を少し含ませてふいてください。

故障かな？と思ったら

- 製品はすべて厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されていますが、万一故障が発生したときは、お買い上げの販売店または弊社営業所サービス係まで、故障状況をできるだけ具体的に連絡してください。
- 故障と思われるときでも、もう一度、つぎのことを確認してください。
- ① [電源]スイッチを押しても電源が入らないときは、ヒューズを調べ、断線しているときは、付属の予備ヒューズと交換してください。
- ② マイクロホンの[PTT] (送信)スイッチを押して、送信ランプが赤色に点灯しているのに通話できないときは、他局の信号を受信していないか、アンテナやアンテナケーブルに異常がないか調べてください。
- ③ スピーカーから音が聞こえないときは、音量が最小にセットされていないか、[モニター]スイッチを押して確認してください。

故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

■保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

■保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

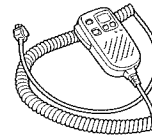
●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

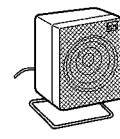
■別売品一覧表

次のような本機専用の別売品をご用意しています。

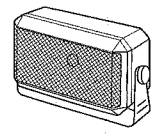
●HM-143 シンプルマイクロホン



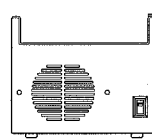
●SP-7 外部スピーカー



●SP-10 外部スピーカー



●PS-230 卓上電源装置



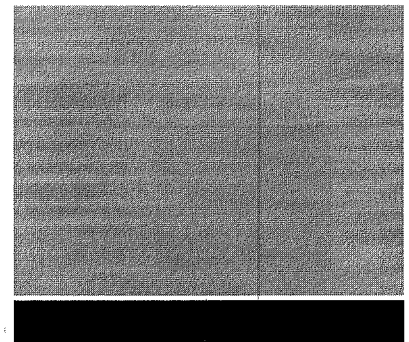
●OPC-841 マイクロホン延長ケーブル(5m)

18

19

MEMO

高品質がテーマです。



アイコム株式会社

本社 547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32 TEL 011-820-3888
 北海道営業所 003-0806 札幌市白石区菊水6条2-2-7 TEL 022-298-6211
 仙台営業所 983-0867 仙台市宮城野区東十番丁54-1 TEL 03-5847-0722
 東京営業所 103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-42-3 TEL 03-5847-0722
 名古屋営業所 468-0068 名古屋市大田区元八事3-249 TEL 052-832-2525
 大阪営業所 547-0004 大阪市平野区加美南1-6-19 TEL 06-6793-6331
 広島営業所 733-0842 広島市西区井口13-1-1 TEL 082-501-4321
 四国営業所 780-0071 高松市藤原町3-19-43 TEL 087-835-3723
 九州営業所 815-0032 福岡市南区塩原4-5-48 TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係にお越しください。

A-6289H-1J-①
 Printed in Japan
 © 2003-2006 Icom Inc.

20